

瀬戸内タウンミーティング（鹿忍地区）

平成 21 年 10 月 23 日（金）19 時～21 時 15 分

牛窓町公民館鹿忍分館 2 階 研修室

参加者：男性 18 人、女性 5 人、計 23 人

出席者：市長、政策調整室 2 名

市民から出た意見と市長の反応

- ・資料の「青年期・壮年期」で、働く場所という言葉があるが、「農業」という言葉が出てこない。今、瀬戸内市農協は岡山市と合併して 2 万 7 千人の組合員となり、売上高は 100 億円。そして、千人の農協職員が月給として 59 億円をもらっている。職員が農業で生活しているとは考えられないか。

（市長）農業については説明しなかったが、職員でも考えて一覧表には載せているが、農業者以外の人も、農業で生活できるようにしていかなければならない。

⇒「農業で生活できるまち」

- ・5 年前に大阪から瀬戸内市に引っ越してきたが、地域の人が温かく住みやすい。ただ、市内には空き家が多く、都会の人を誘致し、安い値段で老後を送ってもらえるようなまちにすれば、人口も減らないのではないか。都会の人が気楽に来て、生活できるように支援してほしい。市に紹介してもらった住居は古くて住めるようなものではなかった。

（市長）人口が減っているので、対策事業も必要であるが、他から来た人を地域みんなで支えあうことも大切。

⇒「都会の人が、気楽に住めるまち」

- ・企業誘致とか、今ある企業を支援して企業の拡張を促すとかといった考えはあるか。若い男性が住めば、妻や子どもが来るので、人口も増えるはず。若い男の人が永く住めるようなまちづくりの構想は持っているか。

（市長）邑久町豆田の工業団地の一角が売れ残っている。そこを売らないと、他の地区を工業用地に指定するのは難しい。それ以外の場所でも、企業に来てもらえる場所を探していかないといけないが、候補地としては本庄から牛窓へ行く途中の土地や、南北道沿線などがある。あと、どこの市も誘致合戦を行っているので、瀬戸内市に来てもらうための営業力が重要。待っているだけでは駄目。自分たちから企業と人間関係を築いたり、情報収集したり、攻めの自治体経営を行わなければならない。

企業誘致によって人口が増えるというのは考えにくいですが、瀬戸内市から人

が出て行くのを減らす効果はある。そういう意味でも、積極的に企業に働きかけていきたい。

また、牛窓地域は「観光」も重要であり、皆さんと一緒に考えていきたい。例えば、外国人が大勢来れば、地元にいながら輸出産業ができる。つまり、外の人に物産だけでなく、地域の魅力を買って帰ってもらえる。これからは「日本のエーゲ海」ではなく「日本の牛窓」として世界の人にPRできるようなまちにしていきたい。それによって、若い人にも来てもらえるまちになるし、牛窓地域には有効な手段と考えている。

- ・ 4月の初会合で、(瀬戸内市自治活動支援事業補助金について)地区一人当たり400円の補助を出すという話があった。昨年どれくらい使われているか尋ねたら、600万円ということで1千万円が使われていないとのことだった。今年も一人当たり400円の金額で、市から補助金に関する通知がきたが、広報では1,175万円しか予算化されておらず、一人当たり300円の計算になる。市長・副市長さんも代わられたが、来年度の予算では地区への補助金を考慮してほしい。また、申請書の枚数が多く、手続きが面倒で困る。
- ・ 市と地区の代表とで要望等を話し合う機会を設けてほしい。
- ・ 鹿忍地区の高潮対策事業が途中で止まっているが、今後どうなるのか。また、下水道は来るのか。

(市長) 高潮対策については、地元の方でお互いが納得できる方策を考えていかなければならないということで、事業が止まっていると聞いている。時間をかけて皆さんが納得できる形を考えていきたい。担当の方から皆さんと話し合いをさせていただくことになると思う。

下水道については、整備されない地域はどうするかなど、現在、市で見直しをしている。合併浄化槽で対応していくところもあり、負担を公平にしていかなければならない。早急に仕組みを作っていかなければならないと考えている。

- ・ 10年もすれば農業する人がいなくなる。専業農家が減っているのは、若い人が農業では生活できないと考えているからだと思う。早急に農業者を育てる必要がある。
- (市長) 農業者の高齢化が進み、すばらしい技術が消えていくのが残念。その技術をどのように伝えていくかということと、耕作放棄地をどのように活用していくかが重要。来年度から補助事業で耕作放棄地の対策事業に取り組む予定にしている。
- ・ オリーブ団地の購入の話聞いたが、瀬戸内市は財政状況が悪いので、物を

有効活用して資金を循環していかないとやっていけない。お金がないということ、福祉が後回しになるのではないかと。

- ・木が茂ってオリーブ団地から海が見えない。

(市長) オリーブ団地は、造成に当たって牛窓町から県にお願いした経緯もあり、難しい問題である。今後はどうやって売っていくかがポイントで、「県が売れないから市も売れない」という考えもあると思うが、「県が売れないものでも、市は売れる」という考えのもと、民間業者と協力し、その営業力を活用していく。そうしないと、人が来ても住んでもらう場所がないということにもなる。

もしオリーブ団地を買うことになったら、他の分譲宅地と合わせて一体的に定住化を考えていく。どの年齢層をターゲットにするかねらいを定め、学校や病院など環境面の付加価値をつけた上で整備をしていかなければならない。市でも検討チームを作って、作戦をねっていく。

- ・牛窓診療所には入院施設がないので、西大寺まで行かないといけない。
- ・近くに眼科がないので、牛窓診療所で眼科を続けてほしい。
- ・バス停から牛窓診療所が遠いため、タクシーで通っている人もいる。
- ・病院の建物だけ作って、医者に貸す方法はないのか。
- ・市民病院の病室は狭く、車椅子でも入れるようにしてほしい。
- ・市民も市民病院を積極的に利用すべきである。

(市長) 牛窓診療所の空いている施設の活用については、老人ホームや生活習慣病の治療施設など様々な提案をいただいている。最終的には、地元の皆さんにとってどういう施設になるのかがいいのか、考えなければならない。

市民病院はこれからどうするのか、早いうちに方針を出さなければならないが、建て替えしなければ、耐震化や医師の確保といった問題から病院がなくなる可能性が高い。税金を使ってでも医療サービスを残すという話になれば、建て替えしなくてはならないし、皆さんに負担をお願いすることになる。アンケートを実施して、皆さんの意見を聞いていく。

- ・牛窓支所に、牛窓地域の事情のわかる人をおいてほしい。

- ・公民館の使用手続きを簡単にしてほしい。

- ・寝たきりの人を作らないということで学校の体育館を使用しているので、使用料をとらないでほしい。

(市長) 使用料については、体育館を維持していくために必要な費用を使用する人に一部を負担してもらうという考えでいただいている。適正な使用料を徴収しないと、子ども世代に負担を残すことにもなるので、ご理解いただき

たい。

- ・ 以前に鹿忍地区で話のあった、ごみの最終処分場についてはその後話はないのか。それがあれば過疎地域から脱却できたかもしれない。

(市長) 今のところは、聞いていない。

- ・ ペンション、ホテルの老朽化や海水浴客の減少など、牛窓の観光で交流人口を増やすのは難しい。交通の便が悪いのが問題だ。

(市長) 交通の便を良くするのは、牛窓にとって大切だと思う。また、牛窓の魅力を再発見し、外へ発信していく必要がある。

- ・ 錦海問題についてどうなっているのか。

(市長) 市としても、銀行や管財人から情報収集するなど、できることをやっている。また、今の堤防がなくなったら、どこの堤防で守るのか、水がどれぐらい入ってくるのかなど調査していこうとしている。

最終的に土地と堤防を誰が引き受けていくのか、住民の皆さんが安心して住めるような解決策を考えていく。

- ・ 現場の立会いに来ても、職員が名前を名乗らない。

- ・ 高額医療の関係で窓口に行ったが、30分待たされた。対応が遅い。

(担当課からの回答) 案件によってはお待たせすることがある。今後対応のスピード化を図る。

- ・ 職員の配置がわからない。誰がどこにいるかわからない。旧牛窓町時代は、職員の名簿を委員に配布していた。